

平成30年度 唐津市立巖木中学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
主体的、協働的に取り組む生徒の育成	①環境を整え、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を展開し、学習意欲を高める。 ②生徒に居場所と活躍の場をつくり、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。 ③「立腰教育」を柱として生活規律を確立し、自己指導力と規範意識を高める。

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

3 目標・評価

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・研究授業を通じた指導力向上	・全員による研究授業の実践を通して指導法改善と工夫を図る。	・年間を通して計画的に全員が研究授業を行う。 ・代表授業を全員が参観し授業交換会を行い指導力の向上と改善を行う。	B	年間を通して全職員の研究授業に取り組んだ。代表授業や道徳の提案授業を通して指導法改善や活用力向上にむけて組織的に研究を図れたことは大きい。研究推進委員会の提案をもとに、校内研究のさらなる充実を図る必要がある。	・校内研究の各部長を中心に研究推進委員会の充実を図り、生徒の学力向上に向けて組織的にそれぞれの視点で具体的な取組を計画・実践する。
教育活動	●学力の向上	・基礎的・基本的学習内容の定着 ・主体的・協働的学習の推進	・基礎的・基本的内容の確認テストを行い、正答率80%を目指す。 ・授業でPWとGWを確保する。 ・年間指導計画を見直す。	・授業や放課後学習のQタイムにおいて確認テストを行う。 ・全職員で調査結果の分析を行い、学習課題やテスト問題の改善を行う。	B	・Qテストを実施し、正答率8割以上を達成できた。満点合格も多かった。 ・調査結果の分析やUDの視点に立った学習指導に取り組んだ。	・調査結果の分析から課題を絞り、教科と職員全体で共通理解して取り組むことを精査し、計画的に実施する。
教育活動	○ユニバーサルデザイン教育	・組織的な取組・研究の推進 ・ユニバーサルデザイン教育の充実	・各部署の部長を中心にテーマに向けて組織的な取組を充実させる。	・校内研のテーマに向けて年間計画で立てた各部署の取組を確実に実行する。	A	・全体研修や疑似体験等年間を通して計画的に行ったため、生徒、職員ともに意識が高まった。アンケートでは生徒の約8割がUDについて理解が深まったと回答した。	・次年度も継続して組織的な取組を図り、さらなる深化につなげたい。年間計画に研修を年度当初に立てて計画的に進める。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員の働き方改革の推進 ・業務の効率化の推進	・効率的な業務への取組を推進する。 ・教職員の時間外勤務が月に60時間を越えないように管理する。	・公務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように配列を工夫・整備する。 ・業務記録管理用PCの横に出動簿を置き、毎日確実に記録し、自己管理を徹底する。	A	・部活動指導の在り方について1学期から見直しと職員の共通理解を図り、時間外勤務の削減を行った。 ・ほぼ全ての職員が時間外勤務時間を60時間以下にできた。 ・業務効率化についてさらに改善を進める必要がある。	・部活動方針については中間評価等を実施し改善を進める。 ・業務の効率化をさらに推進するため、事務の効率化や行事の精選等を全職員で進める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●いじめの問題への対応	・生徒の人間関係の改善	・道徳、教育活動全般を通して「人権教育」の充実を図る。 ・いじめの早期発見を念頭におき、教職員間の連絡、協力体制を密にし、迅速な対応をする。	・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施し早期発見に努める。 ・生徒会活動「人権宣言」、学級活動「他とのかかわり方(道徳)」についての取組を実施する。	B	・毎月の生活アンケートでは、悩みや不安を抱えていても実際には書けていないところがある。 ・教育相談を1、2学期に実施することができたが「他を尊重する、コミュニケーション能力」など人権教育が課題。	・道徳や学校生活全般を通しての「人権教育」の充実を図っていかねばならない。
教育活動	○生徒会活動	・社会生活における規範意識を、生徒同士で高めあい、行動する生徒会	・自主的、創造的な行事の実践を通じて、話し合い活動の活性化、自主的活動の促進を目指す。	①責任ある行動 一人一役 ②時間厳守 5分前行動 ③あいさつの徹底 ④連絡の徹底	A	・各種行事では、計画的に実践ができた。 ・自主的活動の活性化が必要である。	・立案・計画においてPDCAを取り入れた実施を行う。 ・全校生徒が定着するよう専門委員会を充実させる。
教育活動	○キャリア教育の充実	・キャリア教育の推進	・目標とすべき将来の生き方や進路について考える。 ・進路や職業等に関する情報を収集し、活用する力をつける。	・1年時に郷工子自、2年時に職場体験学習、3年時に生き方についての学習を実施する。 ・高校説明会、進路説明会などを通して進学指導を行い、生徒に進学について目的意識を持たせる。	B	・郷土の歴史と史跡、2年生は仕事のやりがい、3年生は進路学習を通して生き方を学んだ。 ・3年間を見通したキャリア教育の計画が必要である。	・教科や総合的な学習の時間の関連を持たせた指導計画を立て実施する。 ・高校説明会や進路説明会に1・2年生の保護者の参加など進路指導を3年間を見通した計画を立てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・立腰教育の推進	・何事に対しても積極的に取り組む生徒、自ら主体的に活動する生徒の育成を図る。	・UDの取組と連携して、写真を掲示する。「履物の揃え方・ロッカーの整理整頓の見本」など、生徒が取り組みやすいように工夫をする。	B	・朝のスタートについては、バス通学生の到着時間によって「朝の会の準備」に余裕がなかったりしていた。2学期以降は、バス通学がなくなり、主体的に遅刻しないように登校することができた。	・立腰放送の取組については、年間を通して実施することができた。しかしながら、それを教室で静かに聞く態度の醸成が課題といえる。
活動教育	○道徳教育	・道徳教育の推進	・「考え」「議論する」道徳授業の実施	・「ふれあい道徳」の実施 ・心のものさしの活用 ・葛藤教材の開発	B	・ふれあい道徳を実施し、家庭でも道徳について話題にもらえるよう働きかけを行った。 ・葛藤教材を数多く用い、心のものさしを活用して、生徒たちの対話を深めることができた。	・「ふれあい道徳」への保護者の参観を増やすため、事前に通信などを通して呼びかける。 ・考え議論する道徳を実現するため、日ごろから生徒同士のより良い人間関係を築き、ワークシート等の工夫を行う。
教育活動	●健康・体力づくり	・健康意識の向上と体力づくり ・食育の推進	・自己の体力の現状を知り、日頃の生活に生かしていく。 ・健康と安全、命の教育を充実させる。	・外部講師を活用した、性と命の講話、薬物乱用防止と防煙教室、救命救急講習会を実施する。 ・スポーツテストを実施する。	A	・実施前に外部講師との打ち合わせを充実させることができた。 ・指導に役立たせることができた。 ・充実したスポーツテスト、各種安全教室を実施することができた。	・健康については「性と薬物乱用防止、防煙」の講習会の実施、安全については「救命救急」のじっぎを交えた講習会を実施することができた。 ・体力の向上についてはスポーツテストを実施し体力の現状と課題等について把握することができたが、それを活用した取り組みを充実させていくことが課題である。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
運学 宮校	○幼保小中高連携	・小中、中高連携を一層深め、指導の充実を図る ・地域との連携の強化	・生活や学習指導について共通した取組を行う。 ・地域と学校の協力関係を築く。	・授業参観・情報交換会を実施し、共通理解を深め共通実践を行う。 ・地域の人材を活用した取組を増やす。	A	・巖木町幼保小中連絡協議会の各部署で連携した共通実践を行った。 ・郷土学習や職場体験学習等で地域の人や企業と連携した活動に取り組んだ。	・平成31年3月で巖木町内の3園が閉園し、「巖木さくらんぼ」が新設されるので、新園との相互理解を進める。 ・中高合同での研修会を実施する。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・UD教育を軸として、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を推進できた。また、学力向上推進校として、研究・実践の成果を発信できた。UD教育を継続し、発展させる。  
・「立腰教育」を柱として、生徒会の活動や生徒の放送により、生活規律や学習態度が醸成された。  
・4月に開園する「巖木さくらんぼ」との連携体制を構築し、これまでの巖木町の幼・保・小・中連携教育を発展させる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目